

# わ だ ち だ

株式会社 西村交益社  
やまぶきカード会員情報誌

Vol.05



# 繋ぐ

2019-2020  
AUTUMN  
WINTER

ご葬儀のことから  
その後のことまで  
なんでもお気軽にご相談ください。

もしもの時は  
24時間365日  
日本全国どこからでも

☎ 0120-62-5909

公衆電話・PHS対応。



法要専用

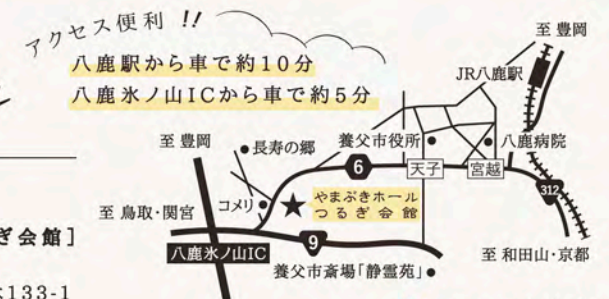
 **やまぶきホール**  
TSURUGIKAIKAN


ホールのご予約・お問い合わせは

☎ 0120-62-5909 [つるぎ会館]

〒667-0044 兵庫県養父市八鹿町国木133-1

www.koekisha.info



 **つるぎ会館**  
株式会社 西村交益社

インフォメーション

協力店ショップガイド

玩具博物館の窓から

おしえて戌亥先生

花とブルース／伊藤雄大

ブラジル滞在記／密祐快

村岡人／てくてく・森ちゃんの隠れ家

村岡を走る／村岡ダブルフルウルトラランニング

## 繋ぐ

### 「わだち」に込めた思い

(株)西村交益社つるぎ会館

ある日、会館を訪ねて来られたご夫婦。

「自分達の葬儀の事を相談しておきたい」との事でした。

ご主人が困難な病気と闘っておられる事、二人の娘さんは、それぞれ嫁がれて、遠くにお住まいであること・・・など、ご事情をお聞きしてから

プランの内容や式の流れ、費用など提案しました。

話が終わり、コーヒーをお出しすると、

「よしっ、これで終(しま)いは、決めた。あとはこれからどう精一杯生きるか。コーヒーが特別美味しく感じるわ。」とおっしゃいました。

そのことがずっと胸の奥にあり、当社にその「これからの人生」を少しでもサポートできる事がないかとの思いから、会員カードを作ったのです。まだまだ発展途上ではありますが、もっとお得で便利なカードにしていきたいと思っております。

「わだち」は、車の通ったあとに残る車輪の跡の事です。

古代ローマ遺跡を旅した時、何千年も昔の馬車の跡がくっきりと残っていました。会員の皆様が歩いてこられた、尊い人生がそこに重なるように思います。

会員情報誌の名前を「わだち」にしたのはその思いがあったからです。

「今日という日は、残りの人生の第一日目である」

私達のこの「わだち」が少しでもお役にたてることを願って。

# 兵庫県香美町

## 村岡を走る



### 村岡ダブルフル ウルトラランニング

ここは地獄か天国か？村岡のまちを早朝に出発した参加者たちは100キロの山岳マラソンに挑んでいた。

兵庫県香美町村岡区。大きな山々に囲まれ、夏の棚田の風景は美しく、冬は真っ白な雪の風景に包まれる。そんなこのまちで年に一度、開催されるのが、村岡ダブルフルウルトラランニングだ。

このマラソンが過酷な理由。それは車一台が通るのがやっとの山道を走り続けるからだ。高低差の合計、約2250m。山道を奥へと進めば、舗装された道はやがてなくなり、砂利道、土の道へと過酷度は増していく。こんなランナーにとっては厳しいコースだというのに参加者は1500人を超えるという。



さらにこのマラソンを影で支えているのは、村岡の人たちだ。各ポイントにあるエイド（給水・給食場）では、地元の方達が飲み物や食べ物を用意して、その過酷なコースに挑むランナーたちをサポートしていた。

サポートの形は色々あり、驚いたのは沿道で応援する方達の応援方法だ。みなさんが手にしているのは参加者の名前とゼッケンの番号が記されたパンフレット。通過するランナーのゼッケン番号と照らし合わせて、「〇〇さん頑張っ〜！」と名前で応援するのだ。さらに山道には参加者全員分の「がんばれ！」と書かれたプラカードが並ぶ。その他にも村岡にあるいくつかのデイサービスセンターに通う高齢者たちの「わしらあにも、何かできることがないだろうか」という言葉から、ランナーたちへのお守りを作るプロジェクトもあるという。

「このマラソンは過酷だけど、地元の方達の温かい声援があるから励みになり、また参加したくなる。」と、参加していた、あるランナーの言葉が印象的だった。



森ちゃんの隠れ家  
森脇 眞理子 さん



てくてく  
村上 尚子 さん

# 村岡人

むらおかびと

村上さんは、尾道生まれの尾道育ち。雪がほとんど降らない瀬戸内海から日本海側に来て、雪の白さに感動したそうです。「尾道では、雪が降ってグラウンドに飛び出しても、足跡のない所が無い程で、雪合戦も泥んこの玉、雪だるまを作れば泥で真っ黒だったけど、村岡の雪は、ウサギの足跡しかない真っ白な雪。思わず、映画「ある愛の詩」のセントラルパークでの1シーンを実際にやりました。」と、雪の話になるとアツい。『ダブルフルランニング』についてお話を伺うと、これもまたアツく語られました。

「村岡の女性はとにかく明るいんです。そしてお世話好きの応援好き。ボランティアのエイド（水分やカロリー補給所）では、一生懸命お世話をします。そして、そこで触れ合った選手の方のゴールが気になり、結果を見に行くことも。毎年参加される方は、顔なじみになって、より一層応援をします。変装やダンス（音楽持参）ランナーの方達がエイドごとにパフォーマンスをして、走り去るのも楽しみの一つで、黄色い声援がとぶこともありませよ。かきう私もその一人ですが……」

てくてく  
TEL.0796-98-1305 / 090-5655-9397  
兵庫県美方郡香美町村岡区光陽132-11



森脇さんは根っからの村岡人。

「村岡の人は、人見知りでもおせっかいかいかな…嫌がられないおせっかいかね。」有名店であり人気店の「森ちゃんの隠れ家」は、この時期、薪ストーブと眞理子ママの笑顔でほんわり暖か。地元村岡の常連さんや展示スペースの作品を見に来られた方、国道9号線を走る運動手の方、自転車日本一周旅の方などが立ち寄られ、お客様どうしのお話が弾みます。『ダブルフルランニング』についてお話を伺うと、お店をされるまでは、第一回目からボランティアで、本部をお手伝いされていたそうです。受付やゴールテープ・アイシングなど午前3時起きで、真っ暗な中で準備をされたとか。コスプレランナー

やシニアランナーとのふれあいなど、忘れられない出会いもたくさんあるそうです。

また13年続けているフラダンスは、フラオニエハワイ大会で、50歳以上のグループ部門で入賞されるほど。眞理子さんいわく、フラは、「なかま作り」「からだ作り」「ボケ防止？」に最適だそうです。現在は地元で30人くらいの教室を主宰しておられます。お店とフラで広域のお友達が来て、発表の場も増え、毎日パワフルに活動されています。月一回程度開催される、隠れ家のライブも定評があり、お酒と音楽に酔いしれるステキなひと時を隣同士に座ったお客様どうしで共有されています。季節折々の手入れされた庭も見えます。



森ちゃんの隠れ家  
TEL.0796-98-1422  
兵庫県美方郡香美町村岡区鹿田111-1

# ブラジル滞在記

## 死者に寄り添う葬儀

ブラジルの葬儀は突然やってくる。朝八時に寺の門が開くと同時に訪れる人は葬儀の依頼が多い。来伯してすぐの頃、葬儀は通夜を挟むので、3日後だと思っていたら、今日なのです。つまり数時間後に出棺するという事。これには理由があって、死亡時より24時間内に埋葬か火葬をしなければならぬという法律があるから。日本は、24時間は火葬を待たねばならないのに。早い時は葬儀依頼後の2時間後に埋葬することがあり、戒名を考え、白木の位牌に書き、法衣をたたんで風呂敷に包み、葬式道具をセットして、30分で準備を整えたことがある。こんな事が普通のブラジルの生活でした。

ペロリオと言う通夜会場は、大きさは様々ですが、一つの建物が八畳〜十畳ほどの部屋に区切ってあって部屋の奥の中央に蓋を取ったままの棺が置いてあり、死者はそ  
他宗の僧侶も同じようにしている。しかしどうもしっくりしない感が常にあった。そこで、葬儀スタイルを一新することにした。私の為の小机もイスも取り払った。最初から最後まで棺のそばに立ったまま導師を務めることにした。引導も諷誦文もその場で死者に向けて近距離のまま行方。棺に眠る死者との距離は70cm位。死者が眠る棺の内側の端に法具もリンも経本も置く。その距離は、30cmも無い。死者とは言え耳元でリンを鳴らすのはうるさいだろうから組んだ手の位置に置く。棺の高さが立って作法するのにならぬ。立ったり座ったりしなくていいし、何の問題もなく出来る。なによりも僧侶が死者に寄り添う距離が遺族の信頼を得ることになった。医者が回診時に患者のそばに寄り添う距離に似ている。その距離が患者に安心と信頼をもたらすように。そしてもう一つの意味があった。  
廊下まで溢れるほどの会葬者は、ずっと立ちっぱなし。法話を入れて約一時間はかかるし、その前後も皆立っているから高齢者には辛かる。そこで僧侶が椅子に座って意味不明な経を長々と読み続ける時間の長さ。綺麗な法衣を身にまとう僧侶は一般者よりも格上の人格なのか。否、特別で

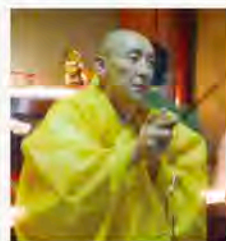
の棺に入ってレース布に覆われて眠っている。棺は台の上に置かれていて、人が立ったまま死者と対面できる高さにある。枕元には花輪が立ち並び。棺をはさんで左右の壁には、イスが並べられ遺族が座る。弔問者はそこに行つて、遺族とハグしながら弔問の言葉をかける。日系人の葬儀だけは小机が用意され、白木の位牌、仏飯、水、ロソク、果物、菓子、花、大きめの鉢、線香立て、そして遺影の写真が置かれる。会葬者は読経中に線香を1本ずつ立てるために長い列を作る。もちろん部屋は狭いので廊下に並び。こんな風景の中で、私は、葬儀の導師を務めている。日本のような豪華さは無い。簡素なものだ。

この国に赴任しての2年間は別の小机を用意してもらい、それを経机として法具を置き、経本やリンを置き、椅子に座って葬儀を勤めていた。まさに日本式であり、あるはずが無い。仕事として葬儀式を執り行っているに過ぎない。だから一般の会葬者と同じように自分も立って葬儀の導師を務める方が良いと思った。すると棺の横に立って読経する僧侶と死者と遺族と会葬者が一体になる風景が生まれたのです。法話も死者の横で、そのまま会葬者の方々を向くだけで話し始めます。立ったり座ったりする時間の間が不要ですから流れがいい。たったこれだけのことで、僧侶が立って仕事をしただけのことで遺族はもとより、会葬者からのヘスペクト(尊敬)を受けました。「いいお葬式でした」と遺族から言われます。でも葬儀に良いも悪いもありません。日本は昔のように家で葬儀をしなくなり、死者との距離が益々離れ、僧侶が死者に寄り添う事をしなくなりました。そうなれば将来、益々葬儀をしない家族が増えるのではないか。その原因の一つが僧侶の『立ち位置』にあるのではないかと思えます。私がブラジルでお世話になっているお寺は本堂に忙しい。葬式も法事もバスターンチ(多い)。お寺は多くの人が入り込んでこそ本尊様も輝きます。ブラジルの蒼い空の下で仏教寺院は生きていました。



高野山真言宗高照寺

花の寺の「花説法」は有名で、毎年訪れるファンも多い。  
兵庫県養父市八鹿町高柳1156 tel.079-662-2865



高野山真言宗高照寺(花の寺)住職

### 密祐快(みつゆうかい)

青年時代に中南米を放浪。放浪中の2年間、グアテマラのインディオ達と暮らす。帰国後、僧侶として、又現代美術作家として各地で活動。高野山の命を受け、南米開教区総監としてブラジルに赴任し、3年間の任務を終え、帰国。

# 花とブルース1

## 「親方と緑萼梅」



植木屋さんデビューの日は、忘れもしない、「生コン運び」だった。現場は田んぼの石垣積みである。先輩たちが石を積むなか、私は、生コンがなみなみ注がれた一輪車を押して、急斜面かつ小石だらけの悪路を登り、現場にぶちまける、の繰り返し。たった2時間で全身は生コンまみれである。15分の休憩を挟んで、再び生コン車がやってきた時は絶望した。その日はこれが3回続いた。

「細いのお、ほんまに大丈夫かいな？」と、面接の時に親方が漏らした言葉に「体力はないけど、根性はあります！」と安易に答えなきゃよかったと後悔した。木登りをして、枝を切るくらいは軽作業だと見送っていたが、こんなこともせなあかのか。虚弱体質で根っからの文化系の私にとって、肉体労働に就くなど、ジャーニーズに応募するくらい発想にないことだった。しくじった。

土木作業ばかりの日々が続き、早々にケツをまくって逃げようとしていた私に、親方が庭木の剪定を教えてくださいることになった。農家向け雑誌の編集部には6年間いたので、農産物の知識には

自信があったが、植木や園芸はさっぱりだ。どれがなんの木やらも覚えられない。「先生、この木何かわかる？」と親方が意地悪げに聞く(親方は私を小馬鹿にして「先生」と呼ぶ)。まだ蕾しかついていないその木に「桜ですか？」と答える私。梅だった。

「寝ボケとったらあかん」と一発かまされたうえで、親方の説明が始まった。「――これは、白花の梅なんやけど、『リョクガク』言うて、萼(がく)が緑色の園芸品種。ほら、白の中に鶯色が混じって、綺麗やろ。しゃあけど、もう少しして、咲く寸前の膨らんだ蕾の状態は最高や。鑑賞にもええけど、案外ええ実がとれんねん。」

16時頃から始まった立ち話は日没まで続いた。9割以上を割愛するが、この緑萼梅は大阪万博の頃に日中友好の証として送られたもので、植え込みの残りを拝借してきたのだそうだ。親方は、僕に庭木や園芸の奥深さ、美しさの多様さを教えてくれた。日給80000円のほとんどを植物につきこむ日々が始まったのは親方のせい。梅の季節になるたび、そんなことを思い出す。

親方の性分は、どうやら親方の父親である「大親方」から引き継がれたものらしい。そのことがわかったのは、大親方の葬儀の時だった。既に隠居されていたので、「親方と瓜二つ」ということしか私は大親方のことを知らなかった。葬儀中に先輩から聞いた話では、大親方は現場に来るたびに「そんなん、あつかいや！」「ちやうがな！」と怒鳴りたくる恐ろしいオヤジとして恐れられていた一方で、「工場勤めのおばちゃんたちの帰宅時間に待ち伏せて、花束を配るオジイ」という可愛い(?)一面もあったらしい。

献花の時間の前に親方が挨拶する。「オヤジは、よそ様の葬式に出掛けても、親族の方々を差し置いて、棺にかぶりつき花で山盛りにしていました。私が、もうそのへんにしとき、と言うても、ほっとけや！と。よく喧嘩になったものです」献花しにいくと、親方は棺の花を触りながら「ほれ、花だらけやんけ、なあ」と泣いていた。大輪の菊に埋もれ、親方とそっくりな老人が眠っていた。

## 伊藤 雄大 (いとうゆうだい)

1985年生まれ。大阪府能勢町在住。東京での農業系出版社勤務をへて、能勢町で植木屋に就職。現在は、農業・農家取材・植木屋の3足の草鞋で生きている。

instagram@yudai\_itou



# おしえて！戌亥先生

「そもそも・・・お仏壇って何の意味があるの？」

「仏壇」とは本来、寺院内に仏像(如来、菩薩など)を安置して、礼拝をし、供物を捧げたりする、周囲より一段高くなった場所のことです。中世まで仏壇と呼ばれていたこの場所は、近世に入ると「須弥壇」と呼ばれるようになります。仏教の宇宙観では、巨大な山「須弥山」が宇宙の中心をなし、そこに帝釈天が所在するとされていますが、須弥壇はこの須弥山をかたどったものと言われます。代わり、各家にあって本尊や位牌を安置する厨子または宮殿型のを仏壇と言うようになり、現在に至っています。

各家に置かれる現在の仏壇の起源は、平安時代の貴族社会における持仏堂、仏間の建立にあると言われます。鎌倉時

代以降、禅宗が広まると共に位牌が流行し、常設の位牌棚となり、位牌の安置所として仏壇が発生したと思われまます。仏壇受容の背景には、民俗として発展した神棚、正月棚、盆棚などの影響もあったと思われまます。各家庭に仏壇が設けられるようになったのは江戸時代中期の寺檀制度確立以降のことです。つまり仏壇は、家の中に設置された、お寺と考えていただくという良いのではないかと思われまます。ただ、そうはいいつつ、現代では信仰の中心となる御本尊だけでなく、御先祖様のお位牌も祀る事が多いことなどから、御先祖様への感謝の念を伝える、対話するための場所とも言えるのではないのでしょうか。

## 仏壇 ミニ知識

### 「仏壇」へのお供えの 五つの基本

#### 飲食

<おんじき>

お仏飯をお供え  
します。家族より先  
にお供えします。

#### 蠟燭

<ろうそく>

暗黒を明るく照ら  
す仏様の智恵を  
表します。

#### 浄水

闍伽(あか)ともいう、  
清らかな命の水です。

#### 花

仏様の慈悲を  
表します。

#### 香

香りがくまなく行き  
渡り、心身を清める  
意味もあります

### 「仏壇」に適した安置場所とは？

#### 南面北座説

南に向け北を背にし  
て安置(日当たりと風  
の通りが良い)

#### 本山中心説

仏壇の前に座り拝  
んだ時、自分と仏壇を通  
して引いた線が本山  
の方向を指す安置

#### 西方浄土説

仏壇を東向きに安置  
する説。仏壇に向かう  
事は西方浄土に向か  
う事になる。本山中心  
説と同じ意

上記の3つの条件をクリアできない場合は？

● 湿気の少ない日当たりの穏やかな所

● 落ち着いて礼拝できる所

● あまり高すぎない所・神棚と真向いでない所(拝むとどちらかにお尻が向くから)



冠婚葬祭コンサルタント

戌亥 正三郎

関西テレビ・毎日放送でもお馴染み、業界第一線で活躍中の冠婚葬祭アドバイザー。終活セミナー、エンディングノートの講師で日本中を駆け回る超多忙な毎日。また、日本のしきたりや食育の講演も多く、全国のセレモニーホールで新人研修にもあたる八面六臂の活躍ぶり。2009年より弊社顧問。